



発行日：令和2年11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第54回川部会WGを開催しました！

10月13日（火）に第54回川部会WGを新型コロナウイルス対策を徹底した上で開催しました。WGでは、豊田市籠川での多自然川づくりの現地視察を行い、その後、現地視察のふりかえりや、川の望ましい像についての意見交換、矢作川鵜の首地区水位低下対策事業の情報共有を行いました。

日時：令和2年10月13日（火）13:15～16:30

会議場所：豊田市梅坪台交流館 2階 多目的ホール

参加者：18名（内オンライン参加1名） ※事務局を含む



### ◆主な会議内容

#### 1. 現地視察 籠川沿いウォーキング



籠川では、1996年から本格的な多自然川づくりが実施され、魚道の整備や、落差工の改善が行われてきました。現地視察では、矢作川との合流部から上流に向かって、籠川沿いをウォーキングしながら、籠川と矢作川の水生生物の生息・生育特性、籠川の整備状況と環境の変化、砂州形成の仕組みなどについて説明を聞き、砂州や植生の状況を確認しました。



#### 2. 話し合い 現地視察のふりかえり・川の望ましい像



籠川での現地視察の状況をふりかえりながら、籠川の自然環境や河川特性、多自然川づくりにおける落差工や魚道の工夫、市民による愛護活動の状況などについて、話し合いを行いました。それらを踏まえ、「川の望ましい像」について、河川管理者目線、住民目線、自然目線から意見を出し合い、川の持つ多様性について協議しました。

【「川の望ましい像」に関する主な意見】

- ・ 普段見ている川としての風景は、重要な要素である。
- ・ 自然が創り出す多様性と、人の関与により創り出される多様性がある。
- ・ いろんな環境要素が、モザイクのように組み合わせられている川は、生物的に多様性が高い。

#### 3. 話題提供 矢作川鵜の首地区水位低下対策事業について



国土交通省豊橋河川事務所より、鵜の首地区水位低下対策事業の進捗と事業効果について、情報共有を行いました。本事業は、鵜の首地区の河道掘削と狭窄部開削を実施することで、豊田市街地（久澄橋下流：38.6k）で、H12の東海（恵南）豪雨時の水位を約1.4m低下させる計画で、本年度より、河道掘削及び狭窄部の地質調査に着手します。



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●現地視察のふりかえり・川の望ましい像

#### ≪籠川の整備について≫

- ・籠川は、魚類の遡上を阻害する落差が12カ所ある。魚類の遡上阻害を重点的に解消すべき川とされている。(近藤)
- ・多自然川づくりは1996年から始められているが、継続して川づくりはやられているのか？ 最終段階として、どのような形で仕上げていくのか？ また、川の状態によって、魚道の形状などは決めているのか？ (橋本)
  - ▶ 12基の魚道が整備できたら、籠川全体としての落差工の問題は、解消されるということになる。(近藤)
  - ▶ 現在、豊田市が公園整備に合わせて、11基目の魚道の整備を計画している。(戸田)
  - ▶ 「美しい山河を守る災害復旧基本方針」なども一つの基準となるのではないかと。(山本)
  - ▶ 魚道の考え方や形状、タイプはいろいろある。しかし、形式だけを選定すればよいわけではない。川の水量や水の流れ方が常に変わる中で、アユを含む多くの魚種が上っていく川を考えることが必要だ。(近藤)
  - ▶ 魚が上るだけでなく、下りられる魚道が重要。籠川の魚道は段差が小さく、生き物にとって非常によい。(高橋)
- ・草丈の管理などは、河川管理者がやるのか、地元がやるのか、あるべき植生の姿を示すのか、いろいろなやり方がある。流域圏懇談会で議論し、一つのモデルを構築できたらよい。(近藤)

#### ≪愛護活動について≫

- ・豊田市において、支川での愛護会の活動への支援体制は、どのような状況であるのか？ (内田)
  - ▶ 主に今ある団体を支援していく体制である。籠川の合流点から400m上流までは、梅坪水辺愛護会の活動区域である。(中園)
  - ▶ 「ワクワク事業」という地域の振興事業がある。ワクワク事業の補助などで各種愛護活動を行っている。(光岡)

#### ≪川の望ましい像について≫

- ・洪水制御や河道の維持など、それを許容する川がよいのか、普段の川の風景が、どうあるべきかが重要なのかなど、誰にとって理想的な川がよいのかを考える必要がある。(近藤)
- ・川が横方向に動いて、河岸を削って、土の崖ができているととてもよい。普段、川を見ていない一般の人などは、どのような川がよいと考えるのか、気になる。(内田)
- ・多自然川づくりでは、川のダイナミズムにある程度依存させるが、自然のまま流すわけにはいかない、という考えが軸にある。大きな河川ではコントロールしてしまうが、中小河川では、左右に暴れさせ過ぎないけれども、それなりに暴れさせられるということも必要。そのためには、勾配が必要であり、籠川はとてもよい例であった。(鷲見)
- ・定規のような水路よりも、籠川のような自然にマッチした川が、生態的にも環境的にもよいと感じる。(北井)
- ・籠川の形状は、人の技で作ったのではなく、川の技が作っていった。いろんな空間があるのが籠川の特徴。(近藤)
- ・川の形と生物の生息場所といった、陸と水のつながりを考える必要がある。川に沿って樹林があり、砂州があり、植物帯があるような環境要素がモザイク状になっている川が、生物にとってはよい。(内田・松沢)
- ・生物にとっては、いろんな環境があるのがよい。籠川で惜しいなと感じるのは、広い砂地がないこと。(高橋)
- ・一本の河川で見た場合、「ここはこういう環境 あそこはこんな環境」というのがイメージできるとよい。(光岡)
  - ▶ 川をいくつかの区間で見た時に、人間や生き物、様々な視点で、今ある川の様子から振り分けや、結び付けができると思う。これによって、川のデザインや、考え方を提示できたらよい。(鷲見)
  - ▶ やはり多様性が重要。生物・樹林・樹木・砂州・雑木など、いろんなことを考えなければいけない。(近藤)
  - ▶ 自然による多様性も大事だが、自然に任せておくだけではなく、人の関与の仕方も多様であってよい。(内田)

### ●矢作川鵜の首地区水位低下対策事業

- ・狭窄部の幅100mくらいのところを約180mに広げる予定。開削には時間がかかることを想定している。下流へ流れやすくなることから、下流域の安城市や岡崎市において、河道掘削や堤防強化などの整備を行いつつ、進めていく。(事務局)
- ・河道掘削で約0.8m、狭窄部の開削で約0.6m、合計して1.4m程度水位を下げる計画となっている。(鷲見・事務局)

### ●その他

- ・第55回川部会WGは、11月17日(火)矢作川下流部で実施する。実施場所は、溝口先生の意向を確認したうえで、事務局で候補地を選定して通知する。(内田・竹下)
- ・愛知県は、矢作川本川と支川の河川整備計画を8月7日に策定した。整備計画は、WEBで公開している。(戸田)

## 今後の予定

### ■第55回川部会WG

日時：令和2年11月17日(火) 13:00~16:00 場所：西尾市役所 会議棟 第2会議室



### ◆お問合せ◆

#### 矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 中村  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。

